

東日本大震災 MSW 災害支援ニュース



JASWHS 公益社団法人 日本医療社会福祉協会
Japanese Association of Social Workers in Health Services

平成27年8月7日 第5巻(第4号)

発行：東京都新宿区住吉町8-20 四谷チンゴビル2F

災害支援チーム TEL (03)3351-5038

FAX (03)5366-1058

Mail: dsstsw@jaswhs.or.jp

もくじ

1. バトン寄稿 – Part2
2. 宮崎県医療ソーシャルワーカー協会研修会報告
3. 活動報告書
4. 災害支援チームからのお知らせ
5. 災害支援ニュース発行のお知らせ
6. あとがき

「東日本大震災医療ソーシャルワーカーの支援のバトンⅠ」 発売中！！

「東日本大震災医療ソーシャルワーカーの支援のバトンⅡ」 発売中！！

「東日本大震災医療ソーシャルワーカーの支援のバトンⅢ」 発売中！！

詳細は“3. 災害支援チームからのお知らせ”をご参照ください。

1. バトン寄稿 – Part 2

~~~~ ~~~~ ~~~~

当協会の東日本大震災での支援活動は、5年目を迎えました。それぞれの時期に当協会の会員であった方々が責任者や担当として、現地にて協力員と共に支援のバトンを紡いでくれました。

~~~~ ~~~~ ~~~~

振り返ってもらいました。

.....

災害支援チーム

国立成育医療研究センター 佐藤 杏

(2011/10/1~2011/12/31 まで現地責任者として石巻に駐在)



2011年3月11日、私は前職場のある南房総に居た。とても大きな揺れで、隣部署の訪問看護ステーションの師長が「ドア開けて」と叫んだのを覚えている。ラウンジにあるテレビをつけたと同時に、太平洋側一帯に津波警報が出ていて、館内放送で「全員2階以上に避難してください」と繰り返しのアナウンスがあった。エレベーターが停止した院内で患者さんを階段で病棟に上げたり、体調の悪そうな外来患者さんを病院のある海側よりも内陸に帰すために民間救急車へ連絡をしながら、点けっぱなしのテレビを覗き見ると仙台空港が津波にのまれる映像をリアルタイムで見た。その瞬間から、この病院にも津波が来たらどうしよう・・・そんな緊迫した思いを抱えながら、必死で目の前の対応をした。

同年8月に退職が決まっていた私は、9月に初めて協力員として石巻市へ向かった。9月末に閉鎖と言われていた福祉的避難所遊楽館には、まだ十数名の方々が生活されていた。仮設住宅に当選するも何度も辞退を繰

り返している女性、ご自宅に戻ろうにも家屋環境が整わないご夫婦など、面接を繰り返しながらこれからの生活を一緒に考え、共に行動した。何十年と続けてきた生活が一瞬にして変わり果て、喪失感なんて言葉では言い表せない感情や、今まで何とかやり過ごしてきた関係性をあらためて考え直し苦しんでいる方々が、ようやく慣れてきた避難所からの居所の移動を生活課題として取り組むことは決して容易ではなかつたろう。

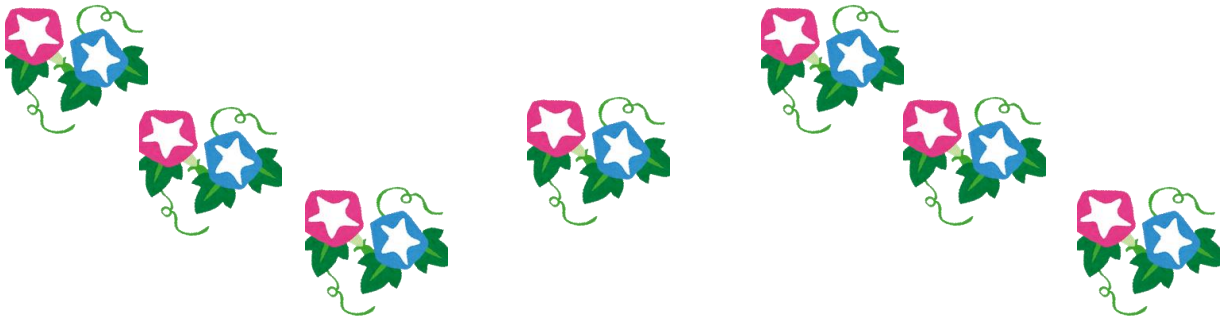
協会は、福祉的避難所での退所支援で終わることなく、被災された方々が地域で安定して生活を営めるよう石巻市から「社会福祉士等相談支援事業」を受託し、仮設住宅での茶話会の開催や個別面接など他団体と協力しながら、その時々に必要な支援を行った。当時の石巻市は様々なことが混沌としていた。避難所に集約していた方々が、市内の100以上ある仮設住宅に住まいを移し、新たに生活を始めたことを考えれば当然である。開成地区の大規模仮設住宅、新興住宅地の並ぶ蛇田地区の小規模仮設住宅、それぞれの課題は

異なっていたが、被災からわずか 7 か月で皆が新しい生活に適應するのに必死だった。避難所からの退所支援は、私たちが普段取り組んでいる退院支援に通じるものがあったが、地域での支援はもっと長期的な視点を要した。その長期的視点の中には、「仮設住宅はあくまでも仮の住まいである」ということも含まれていた。

そして、本年 4 月より協会はあらたに「仮設住宅被災者自立支援事業」を受託し取り組み始めている。この 4 年 5 か月の間に新たな生活をはじめ定着されている方たちもいる一方、前へ進むことに支援を要している住民がいる。今回の事業はそのような方々の居所の移動だけでなく、これから先の生活をいかに見据え、どのように生きていくかを共に考え、地元支援者と共に支えていくことだと

思う。住民が仮の生活ではなく、恒久的な生活をいかに主体的に再建していくかを支援することであろう。

今、「生活の変化」に対しての支援の必要性を知っているはずの私たち SW は、発災後幾度と越えてきたこの変化を前に、同じ時代を生きる SW としての責任を問われている気がする。外部支援者としての役割はいつか終わるが、今の石巻市の状況に想いを馳せると、今ではないと感じざるを得ない。個人的には発災から 4 年 5 か月を経て、災害時における外部 SW の支援は、住民の恒久的な生活への移行までを支援の対象とする必要があるのではないかと考える。今後、東日本大震災災害支援活動の教訓をもとに、協会としての災害支援の枠組みの整理にも貢献していきたい。



2. 宮崎県医療ソーシャルワーカー協会研修会報告

6月5日、宮崎県医療ソーシャルワーカー協会主催研修会に当協会から現地担当の松川が講師として出席しました。テーマは「災害ソーシャルワークを考える」でした。

宮崎県医療ソーシャルワーカー協会

教育部担当理事 小森 有美子

~~~~ 災害ソーシャルワーク研修を開催して ~~~~

宮崎県は、日向灘などの県東方の海域で発生する地震や、陸域や沿岸部の浅い場所で発生する地震、南海トラフ沿いの巨大地震が起きた際、地震だけではなく津波の被害を受けることが予想されており、いつ内部支援者として外部支援者を受け入れる立場になるかわかりません。

宮崎県医療ソーシャルワーカー協会では、今年6月6日に「保健医療分野における災害ソーシャルワーク」をテーマに研修会を開催し、講師に日本医療社会福祉協会 災害支援チーム 石巻現地の松川夏実氏をお招きし、石巻での災害支援活動についてご報告いただきました。

普段接することのない災害支援の現場で、ソーシャルワーカーとしてどのような立ち位置で、どのような支援をしているのかを具体的に知ることができ、参加者一人一人が災害支援について考えるよいきっかけになったと思います。

研修の後半は、「災害時、私たちにできることを考える」をテーマに、引き続き松川氏、DMAT の業務調整員として様々な災害現場に派遣されている当協会員と私にてシンポジウムを開催しました。

DMAT の業務調整員からの報告では、緊

急の場面だからこそ、医療ソーシャルワーカーの調整力や周りを見る力、チームをまとめる力が必要だということ学びました。

研修を企画した私は、いまから10年前、台風災害で所属機関が床上浸水の被害に遭い、病院機能が完全に停止した経験をしました。東日本大震災による津波被害とは比になりませんが、本県で内部支援者になった経験を持つ数少ないMSWです。私の体験は、地震や津波での被災ではありません。毎年やってくる台風です。離れたところで起きていることだから、うちには関係ないと考えずに、日頃から備えをしておく必要だということを感じてもらえたのではないかと考えます。

災害は毎年全国各地でおこっています。災害の大きさは関係なく、被害を受けた当事者にとっては、大切な人を亡くしたり、大事なものを失ったりと心に深い傷を負うことには変わりありません。

今回の研修をきっかけに、県内や近県で災害が発生した時、当協会でも何ができるか、何をすべきかを考えていきたいと考えております。



## 石巻現地担当

松川夏実

～～～ 「災害ソーシャルワークを考える」研修会に講師として参加して ～～～

平成 27 年 6 月 5 日に宮崎県医療ソーシャルワーカー協会研修に講師として招かれました。「災害ソーシャルワークを考える」というテーマに基づいて、前半は私から、当協会の発災直後から現在までの活動内容、これまでの支援から見えてきた課題、また今後起こりうる震災に備えて報告してきました。その後、都城市郡医師会病院の濱田氏から、DMAT の業務調整員としてのさまざまな災害支援に関わった報告がありました。ライフラインや水が途絶した中での過酷な業務や業務調整員として、周りを見渡せる力やクライアント・家族・スタッフへの気配りなどが求められるとのことでした。続いて、潤和会記念病院の小森氏から、平成 17 年に台風の影響で病院機能が停止した経験を踏まえて、内部支援者になったときの心境や今後の災害に備えて何ができるのか報告がありました。日頃の連携により近隣病院のフォロー体制が構築できたことは安心感が強かったそうです。また、お互い顔の見える関係を作る以外にも、災害にあったとき何を願いで

きるのか、対応できるのか明確化しておくことが必要ではないかと、今後の災害に向けての課題についてもお話がありました。

後半は“私たちにできることは何か”をテーマとし、前半の報告を踏まえ参加されている会場の皆さんとディスカッションを行いました。ディスカッションを通して、災害ソーシャルワークも基本は現在行っているソーシャルワークと同じであること、ただ自分の力量（その時々のできることとやらねばならないこと）を見極めていくことの必要性について理解を深める事ができたと思います。また発災直後と現在で支援のあり方が変化していくが、どのフェーズにおいてもソーシャルワーカーの必要性はあるのだと改めて感じました。

最後に、震災後 4 年が経ったなかで、県をあげて講師としてお招きいただいたこと、現地の活動報告だけではなく、県協会の皆さまとディスカッションできたことに感謝申し上げます。





### 3. 活動報告書

協力員 春山 瑞生

石巻ロイヤル病院 （宮城県）

活動期間：2015年7月15日

東日本大震災を経験し、私は被災した直後の石巻市で災害ボランティアを行いました。そのことがきっかけとなり、現在は市内の病院で医療ソーシャルワーカーとして今年度から勤務しています。

今回の活動内容はバーベキューでした。突如現れた新人に対して、会場に現れた時どのような反応を見せるのかと想过いましたが、メンバーのみなさんはまるで「近所の若いのが来た。」という感じで明るく受け入れてくださいました。

しかし蓋を開けてみると大変なご病気だったり生活保護だったり、一人ひとり抱える問題と戦っていました。自分は入院前の情報でどれだけ先入観を抱いていたのかわかりました。

普段私は院内で仕事をしていますが、患者

様が入院する前、退院した後の生活の場は地域社会です。その地域に出て、それぞれの事情を抱えている方たちと関わらせていただくことは、メンバーの方達の生活や地域の生活の様子・実情を合わせて知りえるのではないかと想过っております。今後ともこの活動には是非参加させて頂ければと想过っております。



### 4. 災害支援チームからのお知らせ

#### 【1. 協力員募集】

#### 現 地

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

☆ 引き続き以下の内容にて募集いたしますので、ご協力下さい。 ☆



現在、1日にあたり上限2から3名で募集しております。

**現地までの旅費・交通費は自己負担をお願い致します。**

活動日程につきましては下記のようにお願い致します。

**期 間：** 平日3日以上、

**受入日：** 期間を満たす曜日 (土、日、祝日は活動致しません。)

但し、**上記以外であれば支援活動が可能な場合は現地担当までご相談ください。**

※ 出発2日前までには(到着時刻等を含めて)は必ず現地担当にご連絡ください。

今後、活動に参加される方でその年度初回参加時には、簡単な資料を郵送致します。

ホームページに活動カレンダーを掲載しておりますのでご覧下さい。

## 事 務 所

引き続き募集しております。

平日のみの活動ですが1～2ヶ月に1回でも構いません。

ご協力お願い致します。

## 【2. 災害支援チーム会議開催のお知らせ】

10月13日(火) 19:00～21:00 於：協会会議室

## 【3. 書籍販売】

『東日本大震災 医療ソーシャルワーカーの支援のバトンⅠ』、  
『東日本大震災 医療ソーシャルワーカーの支援のバトンⅡ』、  
『東日本大震災 医療ソーシャルワーカーの支援のバトンⅢ』の

販売を行っています！

発災から2011年9月30日までの石巻・仙台・大槌町・事務所・災害対策本部の活動の記録を『バトンⅠ』に、2011年10月から2012年12月までの災害対策本部、石巻市での仮設住宅支援・在宅被災世帯



支援・市民活動支援、現地 SW との協働の記録を『バトンⅡ』に、  
2013年1月から2014年3月までの災害支援チーム、石巻市での仮設住宅支援・在宅被災世帯支援・市民活動支援、虐待防止センターでの支援・石巻市社会福祉協議会での支援、  
現地 SW との協働の記録を『バトンⅢ』にまとめました。

尚、売り上げの全額を皆様からの寄付として、本活動の資金にあてさせていただきます。

※ご注文は注文用紙で承ります。

(注文用紙はホームページからダウンロードできます)

バトンⅠ:URL: [http://www.jaswhs.or.jp/data/publishing\\_detail.php?@DB\\_ID@=45](http://www.jaswhs.or.jp/data/publishing_detail.php?@DB_ID@=45)

バトンⅡ:URL: [http://www.jaswhs.or.jp/data/publishing\\_detail.php?@DB\\_ID@=47](http://www.jaswhs.or.jp/data/publishing_detail.php?@DB_ID@=47)

バトンⅢ:URL: [http://www.jaswhs.or.jp/data/publishing\\_detail.php?@DB\\_ID@=54](http://www.jaswhs.or.jp/data/publishing_detail.php?@DB_ID@=54)

## 【4.facebook】



facebook でも情報をお伝えしています。現地や災害対策本部の日々の様子をお伝えしています。応援よろしくお願いたします。

URL

<http://ja-jp.facebook.com/pages/公社日本医療社会福祉協会-災害対策本部/156327867812970>

## 【5.YouTube】

現地での災害支援活動の様子を前事務所担当の一原さんが VTR にまとめて下さいました。YouTube にアップしましたので、是非





ご覧ください。「医療ソーシャルワーカー災害支援」で検索すると見つかります。

URL

<http://www.youtube.com/watch?v=vn34I9h5rJ4&feature=youtu.be>

## 5. 災害支援ニュース発行のお知らせ

次回発行予定 8 下旬予定

## 6. あとがき

### 災害支援チーム事務局から

編集担当 富永

今年の夏は、猛暑ということばを超えるくらい“暑い”ですね。石巻では、「川開き」という歴史のあるお祭りが開催されたそうです。日々の暮らしが戻るなかで、楽しいことが増えるといいなと想いを馳せていました。

バトン寄稿の今回は、連載2回目として「福祉的避難所から仮設住宅入居へ」と支援のバトンを繋いだ佐藤氏に寄稿していただきました。いかがでしたか？

そして、6月の宮崎県医療ソーシャルワーカー協会での「災害ソーシャルワーク研修」では、現地の方々の声を聞くことができ、「次の備え」に多くのヒントがあったのではないのでしょうか。また現地責任者の畑中氏も、関西福祉科大学にてコミュニティ論で『石巻の活動報告を行う』ということでお話をされたそうです。

多くの方々と災害支援について一緒に考えられることができるといいですね。

東日本大震災 MSW 災害支援ニュース  
平成 27 年 8 月 7 日 第 5 巻 (第 4 号)  
作成 日本医療社会福祉協会  
災害支援チーム事務局